

車椅子バスケットボールリーグ化構想

同志社大学 スポーツ健康科学部 スポーツビジネス A チーム

○ 鍵 健佑 大島 侑也 新田 和之 山崎 将誉 油谷 直季

1. 緒言

2020 年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されることが決定し、障害者スポーツ関係予算も平成 27 年度の約 26 億円から平成 28 年度には約 43 億円まで大きく増えている。ここからも国の障害者スポーツへの意識は年々高まっていることが分かる。

(表 1) 東京パラリンピックにおける種目別の直接観戦希望率(全体・性別・複数回答)

全体(n=359)			男性(n=187)			女性(n=172)		
順位	種目	希望率(%)	順位	種目	希望率(%)	順位	種目	希望率(%)
1	車椅子バスケットボール	42.3	1	車椅子バスケットボール	45.5	1	車椅子テニス	41.3
2	車椅子テニス	40.7	2	車椅子テニス	40.1	2	車椅子バスケットボール	39.0
3	陸上競技	37.0	4	陸上競技	40.1	3	開会式	37.2
4	開会式	35.9		開会式	34.8	4	陸上競技	33.7
5	水泳	27.3	5	水泳	24.1	5	水泳	30.8
6	閉会式	18.4	6	閉会式	17.1	6	閉会式	19.8
7	視覚障害者5人制サッカー	13.1	7	柔道	16.6	7	視覚障害者5人制サッカー	11.6
8	自転車競技	12.0	8	視覚障害者5人制サッカー	14.4	8	卓球	11.0
	柔道	12.0	9	自転車競技	14.4	9	自転車競技	9.3
10	卓球	10.0	10	アーチェリー	10.2	10	柔道	7.0

スポーツライフ・データ 2014 より

このグラフから東京パラリンピックにおいての直接観戦希望率は車椅子バスケットボール、車椅子テニス、陸上競技が高くなっていることが読み取れる。私たちはその中でも全体の直接観戦希望率が最も高い車椅子バスケットボールに焦点を当てることにした。車椅子バスケットボールは障害者スポーツの中でも知名度が高く、メディアにも取り上げられる機会が多い。ドイツのブンデスリーガやイタリアのセリエ A など海外では車椅子バスケットボールリーグがある国も多く、プロ契約の選手がいる国もある。日本では約 80 チームが活動しているが、年に数回トーナメント戦が行われているのみでリーグはまだ存在しない。しかし、日本選手権決勝やパラリンピック代表決定戦では入場料無料ながら、約 3,000 人の観客が入ることもあるほど障害者スポーツの中では知名度の高いスポーツである。私たちはこの集客数をさらに増加させ、知名度の向上につなげていくために、障害者スポーツ関係者や B リーグ、総合型地域スポーツクラブへのインタビューをもとに車いすバスケットボールのリーグ化に向けた政策を提言していく。

2. 研究の方法、結果

(1) 方法

現在の日本の車椅子バスケットボールについての情報を深く知るために、障害者スポーツ関係者数名へのインタビューを行い、健常者のプロバスケットボールリーグである B リーグの理事である葦原氏から運営方法また、車椅子バスケットボールとのこれからの関わり方についてインタビューを行った。また、総合型地域スポーツクラブに関しては、総合型

地域スポーツクラブに着手しており、知的障害サッカーチーム「奈良クラブバモス」や電動車椅子サッカーチーム「奈良クラブビクトリーロード」をもつ奈良クラブの矢部氏に障害者スポーツと総合型地域スポーツクラブを組み合わせるメリットに関してインタビューを行った。

(2) 結果

ア. 障害者スポーツ関係者へのインタビュー

障害者スポーツ関係者へのインタビューから現在リーグ化が行われていない理由として大きく4つのことが挙げられた。

1	地域ごとに個別の団体の集合体という連盟方式を取っている。 団体ごとに人が少ないため地域ごとの運営は難しい。	人員
2	障害者スポーツは福祉、リハビリとして始まったため、見せるスポーツとしての考えが根付いていない。	福祉
3	福祉という名目で無料で借りることのできている体育館が、入場料を取るとなるとかなりの費用が掛かってしまう。	費用
4	車椅子で移動するとなると費用も掛かることに加え、北海道から沖縄のように遠い距離を移動するのが難しい。	移動

インタビューの結果からリーグ化を行うためには、この4点の不安要素を取り除くかが問題となってくる。

イ. 葦原氏へのインタビュー

葦原氏へのインタビューでは車椅子バスケットボールのリーグ化についての意見、Bリーグとの共同経営に関するインタビューを行った。

Q. 現在の車椅子バスケットボールの状況でリーグ化を行い収益を得ることは可能だと考えられるか。	A. 一番大きな大会で3000人規模の観客しか入らないのであれば、リーグ戦を行っても1試合当たり1000人も客は入らない。まだまだコンテンツとしての魅力は少ないし、収益を得ることは難しい
Q. 過去に車椅子バスケットボールとプロバスケットボールチームを共同経営しようと考えたチームもあったが、現在の状況でそれはうまく行くと考えられるか。	A. Bリーグが発足して各チームまだ手探りの状態の中、それぞれのチームが車椅子バスケットボールのチームを持つほど余裕があるとは考えにくい。現在の状況では車椅子バスケットボールのチームを保有するのは難しいのではないかと。

実際に障害者スポーツ、また車椅子バスケットボールへの知名度は向上しているが、現在の観客数は自分たちが考えていたほど、収益を見込める数字ではないことを葦原氏へのイ

ンタビューから感じた。

ウ. 矢部氏へのインタビュー

Q. 障害者スポーツを取り入れることによるメリットは？	まず障害者スポーツを取り入れることにより、クラブへの注目が高まる。さらに、トップのチーム等を応援していたサポーターが障害者サッカーにも目を向け、応援してくれるようになる。選手も応援を受けてモチベーションにもなるし、サポーターも障害者スポーツを知るきっかけになる。
-----------------------------	---

他に総合型地域スポーツクラブと障害者スポーツに組み合わせることで、現在スポーツをしていない障害者へのきっかけづくりになるのでは、障害者スポーツは障害者スポーツのみで運営していることが多いので、名前のあるクラブが手助けすればよいのではないかな等の言葉をいただいた。

障害者スポーツ関係者へのインタビューで挙げられた4つの問題点のうち、私たちはリーグ化構想をするにあたって福祉という課題に着目して政策を提言していく。さらに、葦原氏へのインタビューから出た集客力の課題を解決するために、まず地域レベルでの知名度を高めていく必要がある。そこで、地域の子どもから大人まで幅広い世代に車椅子バスケットボールに触れて、知ってもらうためには総合型地域スポーツクラブと組み合わせることが一番の近道ではないかと考え、総合型地域スポーツクラブと組み合わせた政策を提言していく。

3. 政策提言

(1) 総合型地域スポーツクラブに車椅子バスケットボールを取り入れる

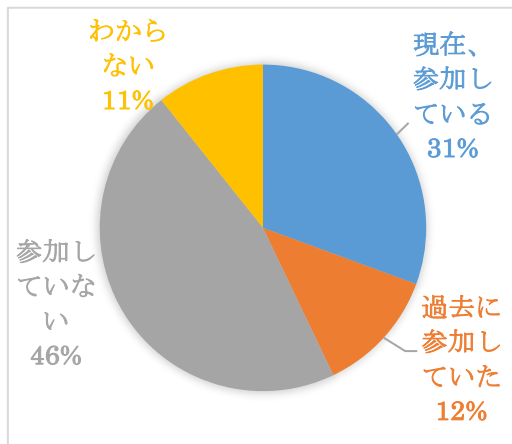
矢部氏へのインタビューにもあったように、総合型地域スポーツクラブと組み合わせることによって、地域の人々またクラブの人々に知ってもらうことができ、応援してもらうことができる。毎試合観客が来て、横断幕を掲げ、声を上げて応援してくれる。これにより、これまで福祉やリハビリとしての意味合いが強かった障害者スポーツ、車椅子バスケットボールを見せるスポーツへ移行させることができる。これはリーグ化を考える際に重要な部分だと考える。

(表2) 総合型地域スポーツクラブで障害者が参加している（参加していた）種目

順位	種目	参加率(%)
1	卓球	15.1
2	グラウンド・ゴルフ	13.1
3	健康体操・運動	11.4
4	ウォーキング・ハイキング	10.4
5	ジュニアスポーツスクール	8.4

スポーツライフ・データ 2014 より抜粋

(図1) 過去または現在の総合型地域スポーツクラブへの障害者の参加状況



スポーツライフ・データ 2014 より抜粋

また図1からもわかるように過去または現在、総合型地域スポーツクラブに参加している障害者は半数にも満たない。さらに表2より、参加している種目に障害者スポーツが含まれていないことがわかる。車椅子バスケットボールを総合型地域スポーツクラブへ取り入れることによって、これまでスポーツに参加する機会がなかった障害者の人々に機会を提供することができる。さらに、健常者が障害者スポーツへ触れる機会も作ることができる。総合型地域スポーツクラブで性別、年代、障害の有無を問わず、幅広い人々が障害者スポーツへ触れることで、知名度の向上、また障害を持つ人への理解が深まるのではないかと私たちは考えた。

この見せるスポーツへの移行、障害者スポーツへ触れる機会の提供がリーグ化への大きな一歩になると私たちは考える。

4. 参考文献

文部科学省 障害者スポーツに関する基礎データ集

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/sports/027/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2015/06/15/1358884_09.pdf

文部科学省 障害者スポーツ関係予算（平成28年）

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/sports/detail/_icsFiles/afieldfile/2015/09/07/1354044_02.pdf

文部科学省 障害者スポーツ関係予算（平成27年）

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/sports/detail/_icsFiles/afieldfile/2015/06/12/1354044_01.pdf

笹川スポーツ財団(2014) スポーツライフ・データ 2014 -スポーツライフに関する調査報告書-

笹川スポーツ財団(2014) スポーツ白書 2014 ～スポーツの使命と可能性～